

極秘

1175

一九三三年四月十日

日支論争

(自一九三一年九月十八日  
至一九三二年二月二十二日)

在東京中華民國外交部情報局發行  
朝鮮總督官房外事課 謹

朝鮮總督府

541 0542

1175

緒言

本意見書ハ支那主席代表顧惠慶氏ガ一九三二年二月二十二日國際聯盟事務總長ニ提出シタモノデアアル。茲ニ顧氏ハ一月二十九日事務總長ニ宛テタ密翰ニ於テ聯盟ハ其ノ規約第十一條ニ基キ日支紛争事件ヲ解決ヤント試ミ居ルモ更ニ第十條並第十五條ヲモ之ニ適用スベシト要求シタノデアアル。

即チ第十五條第一項ニハ

「聯盟國間ニ國交斷絶ニ至ルノ虞アル紛争發生シ第十三條ニ依ル仲裁裁判又ハ司法的解決ニ付ヤラザルトキハ聯盟國ハ當該事件ヲ聯盟理事會ニ付託スベキコトヲ約ス何レノ紛争當該理事會モ紛争ノ存在ヲ事務總長ニ通告シ以テ前記ノ付託ヲ爲スコトヲ得事務總長ハ之ガ充分ナル取調及審理

朝鮮總督府

542 0543

REEL No. A-0114

0572

アジア歴史資料センター

ニ必要ナル一切ノ準備ヲ爲スモノトス」  
トアリ更ニ

第十五條第二項ニハ

「此ノ目的ノ爲紛争當事國ハ成ルベク速ニ當該事件ニ關シ陳述書ヲ一切ノ關係事實及書類ト共ニ事務總長ニ提出スベク聯盟理事會ハ直ニ其ノ公表ヲ命スルコトヲ得」

ト規定シテ居ル

而シテ本意見書ハ九月十八日以後ニ於テ事件ガ如何ニ進展シタカヲ明確ニ述べ更ニ聯盟理事會ガ日本側ノ頑強ナル反對ノ爲繼續ニ進着シ絶大ナル苦心ヲ拂ツタ事或ハ又支那ガ聯盟ニ忠實デアツテ事變惡化ヲ極メテ憂慮シテ居タ事等ヲ證明スル材料ヲ提供スルデアラウ

第一章 序 論

日支紛争事件ノ全貌ハ今ヤ聯盟規約第十條第十一條並第十五條ノ適用ニヨリテ世界ニ遺憾ナク暴露サレタ。既ニ聯盟ハ規約第十一條ニ依ル解決方法ハ他ノ條項ノ適用ニ依ツテ停止サルル事ナク或ハ又他ノ條項ヲ以テ之ニ代フル事ナキ旨ヲ既ニ明示シテ居ル

兎ニ角日本ノ滿洲侵略ニ因リテ惹起サレタル日支紛争事件ハ聯盟ノ手ニ依リ餘ヌ所ナク解剖サレルコトトナツタノデアル

今ヤ日支紛争事件ハ全ク重大性ヲ帯ビ來リ若シ一步ヲ誤ランカ其ノ累世界ニ及ブヤモ計ラレザル状態ニ立チ到ツタノデアル

膨大ナル四億ノ民ヲ有スル支那大國ハ國運ヲ暗シテ聯盟規約ノ適用ヲ要求シテキル

今コソ國際聯盟ノ眞價ヲ世界ニ發揮シ其ノ規約ノ神聖不可侵ナルコト

「一層強調スベキ秋デアル  
 日支紛争事件コソ國際聯盟ガ其ノ規約ヲ運用スベキ最初ノ試金石デア  
 ル之ニ關シ佛國代表タルテイユー氏ハ二月八日ノ軍備縮少會議ノ席上  
 ニ於テ左ノ要旨ノ演說ヲ試ミタ  
 「聯盟規約ノ解釋ニ關シ當テ何等反對ヲ受ケタコトガナカツタ爲カ聯  
 盟ハ規約解釋上斷乎タル態度ニ出ル勇氣ニ缺ケテ居ル然ルニ今ヤ不  
 幸ニシテ其ノ規約ノ解釋ニ關シ日本ノ頑強ナル反對ニ遭遇シタノデ  
 アル 故ニ吾人ハ斷乎トシテ國際聯盟規約ノ神聖不可侵ナルコトヲ  
 世界ニ知ラシムベキデアル」  
 日支關係ノ調停ニ關スル基礎的問題トシテ先ツ極東ノ水久的平和ヲ確  
 立スベキ基礎ヲ建設スル爲吾人ハ日支國交ノ回復ヲ企圖セホバナラヌ  
 ガ之ガ爲ニハ支那東北各省ノ事態ヲ考慮スル必要ガアル更ニ進シテ之

545 0546

ガ徹底的解決ヲ期ヤントセバ九月三十日並十二月十日ノ聯盟理事會決  
 議ニ則リ至急其ノ事態ノ安定ヲ圖ラネバナラヌ  
 之ニ關シテハ當初ヨリ支那ノ主張ヤシ次ノ二點ヲ考慮ニ入ルベキデア  
 ル  
 (一)日本ガ支那領土ヲ占領シツツアルコトハ明白ナル事實デアツテコ  
 ノ事實ガ存在スル限り日支直接交渉ノ餘地ハ認めラレザルコト  
 (二)極東ノ平和確立ノ爲日支關係ヲ調停スルハ紛争當事國以外ノ第三  
 國ノ權益ヲ擁護スルコトトナルノミナラズ聯盟規約、巴里條約、  
 九ヶ國條約ノ趣旨ニ全ク一致スルコト  
 日本ノ軍事行動ヲ停止セシメ戰禍ノ厄ヨリ良民ヲ救ヒ剩下ノ情勢ヲ戰  
 前ノ状態ニ復歸セシメルコトハ夙ニ吾人ノ所望フ處デアアルガ吾人ハ徒  
 ニ過去ヲ云々スルモノデハナク他國ノ領土ヲ暴力ヲ以テ侵略占據スル

546 0547

ノ是非ヲ論セントスルモノデアル  
 聯盟ハ日支紛争事件ニ依ツテ生ズル重大ナル結果ヲ憂慮シ之ガ解決策  
 ニ腐心シタノデアアルガ實際一九一四年以來世界カスノ如キ國際的危機  
 ニ頻シタコトハ未ダ嘗ツテ無カツタト云ウモ過言デハナイ  
 リットン卿一行ノ極東調査ニ依リ日本ノ侵略ハ勦カス可カラザル事實  
 デアツタト云フ事ガ憂鬱サレルニ至ツタノデアアル即チ最初日本軍ヨリ  
 攻撃ヲ開始シ約五ヶ月間ニ亙リ其ノ暴威ヲ逞ウシ遂ニ滿洲ト云フ廣大  
 ナル支那領土ヲ占據スルニ至ツタ事ハ疑ヒナキ事實デアアル  
 此ノ情ムベキ日本ノ侵略行爲ハ遂ニ戰爭ト云フ恐ルベキ結果ヲ惹起セ  
 シメタノデアアル  
 此ノ侵略行爲ノ規模ノ大ナル事且之ニ要シタル時日ヨリ見テ吾人ハ到  
 底之ガ偶發的事件デアツタト云フ主張ヲ認メル事ハ出来ナイ

朝鮮總督府

547 0548

日本ノ行動ニ依リ聯盟規約ノ委任トモ云フベキ第十一條規定ハ全ク繰  
 廻サルルニ至ツタノデアアル  
 聯盟規約第十條ニ依レバ  
 「聯盟國ハ聯盟各國ノ領土保全及現在ノ政治的獨立ヲ尊重シ且外部ノ  
 侵略ニ對シ之ヲ擁護スルコトヲ約ス右侵略ノ場合又ハ其ノ脅威若ハ  
 危険アル場合ニ於テハ聯盟理事會ハ本條ノ義務ヲ履行スヘキ手段ヲ  
 具申スベシ」  
 日本ハ聯盟國ノ一ニシテ規約第十條ノミナラズ他ノ條項ニ關シテモ何  
 等ノ保留ナク受諾シタルモノデアアル（第一條參照）  
 故ニ支那ハ此ノ規約ニ基イテ日本ノ滿洲占據上海攻撃兩京砲撃其ノ他  
 幾多ノ軍事行動ヲ支那ノ領土保全及現在ノ政治的獨立ヲ侵害セル行爲  
 ナリト認定スルノデアアル。此ノ支那ノ見解ハ極メテ明白ナルモノデア何

朝鮮總督府

548 0549

本ノ満足スベキ解決ニ到達スルコトガ出来レバ喜ンデ之ヲ放棄ス  
ルモノデアルコト

朝鮮總督府

550 0551

等議論ノ餘地ハナイ。然ルニ之ニ關スル日本側ノ見解ニ依レバ斯ノ如キ  
行動ハ何等侵略的意圖ヲ有ヤストナシ其ノ理由トシテ次ノ如ク擧ゲテキ  
ル  
一 支那ニ在留スル日本人ハ公平ナル待遇ヲ受ケザルノミカ屢々生命財  
産ニ脅威ヲ受ケタコト  
二 日本ハ滿洲上海其ノ他ノ地ニ於テ法律秩序ヲ確立シ且ツ維持スルコ  
トヲ自己ノ義務ト自覺シ居ルコト  
三 支那國民ノ日本商品ニ對スルボイコット  
四 支那國民ハ日本軍ノ侵略ヲ喜バザリシモ日本軍ハ其ノ占據地ノ擁護  
ノ爲目衛上攻略ヤザルヲ待ザリシコト  
五 日本ハ其ノ占據地ヲ永久ニ獲得セント意圖スルモノニ非ズシテ居留  
民ノ安全ノ確保、ボイコットノ撤廢カ行ハレ日支直接交渉ニ依リ日

朝鮮總督府

549 0550

第二章 歴史的背景

一般ニ滿洲ト稱スル地（支那國人ハ之ヲ東三省ト呼ブ）ハ土地極メ  
 ナ肥沃ニシテ經濟的發展ノ餘地大ナルモノガアル  
 地圖ニヨリ之ヲ見ルモ其ノ面積ハ佛獨兩國ヲ合シタルヨリ大ニシテ太  
 古ノ時代ヨリ支那ノ領土ニ屬シ歴史上、人種上並政治上ヨリ見ルモ明  
 カニ支那ノ一部デアル滿洲ナル名稱ハ時トシテ滿洲人ノ國土ナルガ如  
 キ誤解ヲ招クガ之等滿洲國人ハ即チ支那人系統ノ民族デアツテ支那人  
 ノ五民族中ノ一ガ即チ滿洲人デアリ人種上ヨリ云ヘバ明カニ支那人ニ  
 屬スル

滿洲ハ領土的ニ云フモ行政的ニ云フモ支那ノ領土デアル之ハ本問題ニ  
 關スル凡ユル條約ニ於テ各國ノ是認スル所デアリ且殊ニ一九二一年  
 一二年ノワシントン會議ニ際シテモ列強ニヨリ認メラレタル所デアル

朝鮮總督府

同會議ニ於テハ滿洲ガ支那ノ主權、獨立並其ノ領土行政ノ範圍内ニ包  
 含サルベキモノニ非スト提言セルモノナク日本モ斯ノ如キ主張ヲ爲サ  
 ナカツタノデアアル又一九二八年七月十三日當時英外相タリントー  
 ン、チヤムパレン氏ガ下院ニ於テ「英吉利ハ滿洲ヲ支那ノ一部ト思惟  
 ス」ト答辯シ且又米國國務長官ケロツグ氏モ一九二八年五月二十一日  
 ノプレス紙上ニ於テ同様ノ事ヲ述ベタノデアアル  
 加之一九二六年一月一日時ノ日本外相幣原氏ハ議會ニ於テ當時田中大  
 將一黨ノ主張ヤル滿洲ニ於ケル「積極的政策」ヲ反駁シテ次ノ如ク述  
 ベタノデアアル

「東三省全省ガ戰爭ノ脅威ニ擾亂サルルガ如キコトナク其ノ安寧秩序  
 ガ維持サルルコトハ滿洲人並日本居留民ニトツテ大イニ望マシキコ  
 トデアアルガ之ハ支那ノ責任ニ屬スル所ニシテ正當ナル理由ナクシテ

朝鮮總督府

日本ガ此ノ責任ヲ引受クルハ明カニワシントン條約ノ根本精神並日本政府ノ從來ノ聲明ニ悖ルモノデアラスノ如キハ我ガ國ノ國際的名譽ト誇ラ水久ニ失墜スルモノデアルカラ吾人ハ如何ナル場合ニモ斯ノ如キ先見ナキ行動ニ同意スルコトハ出來ナイト。

日本ガ滿洲ノ舉動ニ容喙スル様ニナツタノハ最近ノコトデアル。最初日本ハ支那ガ水年宗主權ヲ有シテ居タ朝鮮ニ觸手ヲ延バシソノ結果ハ日清戰爭トナリ而シテ一八九五年ノ下關條和談判ニ於テ遂ニ支那ハ朝鮮ノ獨立並自治權ノ是認ヲ餘儀ナクサレ加之廢順及大連ヲ含ム遼東半島ヲ水久ニ日本ニ讓渡シ且二億テールノ賠償金ノ支拂ヲ要求サレタコノ結果露佛獨ノ三國干涉トナリ日本ハ已ムヲ得ヌ遼東半島ヲ支那ニ還附シ其ノ代價トシテ支那ハ更ニ三千萬テールヲ日本ニ支拂フコトトナツタ。露國ハ茲ニ於テ支那ヨリ東支鐵道並ニ大連廢順ニ至ル幹線ヲ

朝鮮總督府

其ノ手ニ收メ次テ遼東半島ノ租借權ヲ獲得シタノデアル。

一九〇五年ニ至リ日本ノ亞細亞大陸進出ノ野望ハ遂ニ日露國交ノ斷絶ヲ齎シタガ支那ノ領土タル滿洲ノ地ニ行ハレタ日露戰爭モ遂ニ時ノ米國大統領テオドル、ルーズベルト氏ノ盡力ニヨリ講和談判トナリ一九〇五年九月五日調印サレタルポーツマス講和條約ニヨリ日本及露國ハ互ニ左ノ事ヲ約シタノデアアル

即チ

遼東半島租借權ガ其ノ效力ヲ及ボス地域以外ノ滿洲ヨリ全然且同時にニ撤兵スルコト

前記地域ヲ除クノ外現ニ日本又ハ露國ノ軍隊ニ於テ占領シタル滿洲全部ヲ擧ゲテ全然清國專屬ノ行政ニ還付スルコト

日本及露國ハ滿洲カ滿洲ノ商工業ヲ發達ヤシムガ爲列國ニ共通スル

朝鮮總督府

一般ノ措置ヲ執ルニ方リ之ヲ阻礙セサルコトトシ爾第三條ニ於テ兩國ハ清國ノ主權ヲ侵害シ又ハ機會均等主義ト背馳スルガ如キ何等カノ領土的利益優先權又ハ專管居留地ヲ滿洲ニ於テ設定セザルコトヲ聲明シタノデアアル而シテ同條約ニヨリ日本ハ旅順及大連港ノ租借權ト共ニ今日南滿洲鐵道トシテ知ラレテキル長春旅順間ノ東支鐵道兩部支線ヲ屬國ヨリ繼承スルコトトナツタノデアアル

支那ハ一九〇五年十二月二十二日北京ニ於テ日清條約ヲ締結シ此ノ條本ヲ承諾シタノデアアル而シテ北京條約ノ存在ヲ價値付ケタモノハ即チ次ノ二條デアツテ其ノ第一條ニ於テ清國ハ租借地及鐵道附屬地ノ讓渡移轉ヲ受諾シ第二條ニ於テハ日本ト後述ノ如キ特殊協定ヲ結ンデキル即チ

「日本政府ハ清露兩國間ニ締結セラレタル租借地並鐵道敷設ニ關ス

朝鮮總督府

ル原條約ヲ事情ノ許ス限リ確認シ之ニ關シ將來何等カノ案件生シタル場合ニハ清國政府ト協議ノ上之ヲ定ムベシ」

而シテ北京條約ニ引キ續キ日支兩國ハ所謂附屬協定ニ署名シ滿洲ニ於テ兩國ガ利害關係ヲ有スル或ル種ノ問題ヲ處理ヤンコトヲ約定シタノデアアル

北京條約第一條ニ於テ清國政府ハ日露軍隊撤退ノ後成ルベク速ニ外國人ノ居住及貿易ノ爲自ラ進ミテ滿洲ニ於テ十六ノ指定都市ヲ開クベキコトヲ約シタ

同第二條ニ於テハ日本ハ若シ滿洲地方ガ平靜ニ歸シ外國人ノ生命財產ヲ清國自ラ完全ニ保護シ得ルニ至リタルトキハ露國ト同時ニ鐵道守備隊ヲ撤退スヘキコトヲ約シタノデアアル

一九一七年露國ハ其ノ鐵道守備隊ヲ東支鐵道沿線ヨリ撤退ヤンメタニ

朝鮮總督府



反シ日本ハ尙之ヲ駐屯ヤシメ爲ニ支那人ト鐵道官憲トノ間ニ常ニ問題ヲ惹起シ且日本鐵道守備隊カ匪賊ノ逮捕檢察ヲ口實ニ支那統治下ニア  
ル地方ニ司法權ヲ行使ヤントシタノテ事關ハ懸々紛糾ヲ來シタノデア  
ル

第六條ニ於テハ清國政府ハ安東奉天間ノ軍用鐵道ヲ日本ニ於テ各國商  
工業ノ貨物運搬ノ爲引續キ經營スルコトヲ承諾シ此ハ日本ノ有スル權  
利ハ該鐵道ノ改良工事完成ノ日ヨリ起算シ十五ヶ年ヲ以テ滿期ト爲シ  
右期限ニ至ラバ雙方ニ於テ他國ノ評價人一人ヲ選ミ該鐵道ノ各物件ヲ  
評價ヤシメ清國ニ買渡スヘキコトヲ協定シタ

之等ノ條約並協定ハ成立シタノデアアルガ之ニ依ツテ直チニ日本ガ南滿  
洲ニ於テ特殊的又ハ獨占的專業權或ハ鐵道敷設權ヲ獲得シタトハ考ヘ  
ラレナイ

朝鮮總督府

0558

557

斯ノ如キ權利ガ附與サレタトスレバ其レハポーツマス條約第三條ノ門  
戶開放機會均等主義ニ悖ルモノデアアル

而シテ租借期間ヲ九十九年ニ延長スベシトカ支那ハ自己資本ヲ以テス  
ラ該地域ニ鐵道ヲ敷設スベカラスト云フガ如キ日本ノ其ノ後ノ要求ナ  
ルモノハ一九〇五年ノ之等條約ニ違反スルモノデアアル

然ルニ北京條約及附屬協定調印ノ日ヨリ今ニ至ル迄日本ハ同文書ニ附  
隨シテ秘密文書ヲ以テ支那ハ上記ノ鐵道回收以前ニ南滿洲鐵道附近ニ  
本線、滿鐵平行線或ハ滿鐵ノ利益ヲ侵害スルガ如キ支線ノ敷設ヲ爲サ  
ザルコトヲ承認シタノデアアルト主張シテ來タノデアアル

而シテ日本ノ主張スルガ如キ秘密外交文書ノ存在ニ就テハ何等價スベ  
キ證據無ク又何等公式文書モ存在シナイ。又極東問題ニ關スルワシン  
トン會議第十一次會議決議ニ從ツテ米國政府ニ提出サレタ日本側ノ秘

朝鮮總督府

0559

558

密又書ニ關スル主張ヲ確證スルモノハ何モナカツタ  
 一九〇五年ニ於テハ支那ハ日本ノ鐵道線路ニ平行ナル鐵道ノ敷設ヲ行  
 フベカラストノ意味ノ協議案ガ日本ヨリ提議サレ論議沸騰シタガ其ノ  
 協議案ノ字句ハ「支那ハ兩滿洲鐵道ニ平行ナル鐵道ヲ敷設ヤズ」ト言  
 フノデアツタ  
 其ノ後一九〇七年ニ至リ支那交通部ガ京奉線ヲ新民ヨリ法庫門ヘト延  
 長シ更ニ洮南ヨリ熱龍江迄延張ヤントシ途ニ間繼ヲ惹起シタノデア  
 ル之ガ爲當時在北京駐在日本公使ハ抗議ヲ爲スニ至ツタガ支那外交部ハ  
 之ニ對シ次ノ如ク回答シタノデア  
 協議案論議ノ際支那全權ガ「平行」ナル語ハ頗ル莫然タルモノナルヲ  
 以テ嗤數ヲ述ベラレタシト指摘シタコトハ既ニ御承知ノ筈デア  
 日本側ハ之ニ反駁シテ斯ノ如キハ列國ヲシテ日本ガ支那國鐵道ノ發展

559 0560

ヲ妨害シツツアリトノ誤解ヲ起サシメルニ至ルデアラウト述ベタ  
 支那側ハ歐米ノ先例ヲ舉ゲ之ニ倣フベキコトヲ主張シタ處日本側ハ之  
 ニ對シ右先例ハ事情ガ異ツテ居ルト反駁シタノデア  
 日本側ハ結局滿洲開發ノ爲採リタル支那ノ措置ヲ阻害ヤズト聲明シタ  
 ノデア  
 アルガ支那ハ此ノ日本ノ聲明ヲ誠意アル言葉ト認メ且日本ノ友誼  
 ニ感激シタ程デアツテ從テ此ノ提案ハ兩國共ニ遵守スベキモノト思惟  
 スル次第デア  
 平行線ニ關スル約定ハ頗ル莫然タルモノナルニ不拘日本ハ之ヲ猶ニ幾  
 度カ支那及外國資本ニ依ル支那ノ滿洲鐵道開發事業ヲ阻害シテ來タノ  
 デアル此ノ例トシテ著シキモノハ(一)一九〇七年―八年新民法庫門間ノ  
 鐵道敷設ヲ計畫シタ際此ノ事業ハ英國商館ノ監督ノ下ニ行ハレント  
 シタノカ途中挫折シタノデア  
 ル(二)一九〇九年―一〇年ノ錦州愛琿間鐵

560 0561

道敷設ノ際英米會社トノ契約方同様に阻止セラレタノデアアル  
 日本ハ以上ノ各場合ニ於テ此等ノ舉業ヲ妨害スル爲ニポーツマス條約  
 ノ精神ニ反シテ自己ノ權限ヲ殊更ニ擴張シタノデアアル 其ノ依ニ於ケ  
 ル事件ノ成行及滿洲ニ關スル日支間ノ條約ハ支那ノ輿論ニ依レバ何レ  
 モ一九〇五年ノ條約及附屬協定ニ基ツクモノデアリ從ツテ本來ハ滿洲  
 ニ對スル遼東半島租借期間ハ一八九八年ヨリ二十五年間即チ一九二三  
 年ヲ以テ滿了シタモノデアリ且東支鐵道建造經營約款ニ依ルモノ之ハ  
 埃南滿洲鐵道ニモ適用サルベキモノデアアル一東支鐵道ハ鐵道工事ガ完  
 成サレ運轉開始ノ日ヨリ八十年後ニ於テハ無償ニテ支那ニ之ヲ返還サ  
 ルベキモノデアアル  
 斯クシテ東支鐵道ハ一九〇三年ニ開通サレタ故ニ一九八三年ニハ支那  
 ニ歸屬スベキモノデアアル

561 0562

而シテ前記東支鐵道建造經營約款中ニハ完成ノ日ヨリ三十六年後即一  
 九三九年ニ成ル條件ヲ以テ支那ニ該鐵道輸入權ガ發生スルコトヲ認メ  
 テ平ル然シナカラ日本ハ一九〇五年ノ協定ナルモノハ一九一五年威魯  
 的ニ締結シタル新條約ニ依ツテ補足變更ヲ加ヘラレタノデアアルト主張  
 スル  
 此ノ威魯的條約トハ世界大戦中日本備ヨリ提出サレタ彼ノ有名ナル二  
 十一箇條ノ要求ヲ云フモノデアアル此ノ要求ハ正式ノ外交手段ニ據ラズ  
 シテ極メテ秘密裡ニ支那大總統袁世凱ニ提案サレタノデ若シ此ノ要求  
 ニ應ヤザル場合ニハ日本ハ武力ニ訴フル意思アル事ヲ明言シタル最後  
 的ノ通牒デアツタ 當時袁世凱ハ喉元ニ拳銃ヲ突キツケラレタル形デ  
 此ノ要求ノ承諾ヲ強請サレタノデアツタ  
 此ノ二十一箇條要求ノ一部ヲ摘記スレバ

562 0563

朝鮮總督府

(一) 旅順港、大連港、南滿鐵道並ニ安奉鐵道租借期限ヲ九十九ヶ年即チ二〇〇二年迄延長スルコト

(二) 一九三九年ニ至リ支那ハ南滿洲鐵道ヲ買戻ス權利ヲ取消スコト

(三) 安奉鐵道租借期間ヲ二〇〇七年迄延期スルコト

(四) 南滿洲及東部内蒙古ニ於ケル鐵道建設資金貸借協定ニ於テ日本資本ノ優先權ヲ認ムルコト

(五) 支那ガ將來其ノ企業ニ關シ他國ヨリ資本ヲ仰ガントスル時ハ日本資本家ノ優先權ヲ認メ之等借款ハ前記地方ノ賭稅ヲ擔保トスルコト

(六) 支那ガ政治財政及軍事警察上ノ外國ノ顧問ヲ僱用セントスル場合ハ日本ノ優先權ヲ認ムルコト

(七) 南滿洲並東部内蒙古ニ於ケル支那官憲ガ日本臣民ニ對シテ警察法

朝鮮總督府

命令ヲ施行シ或ハ税金ヲ賦課セントスル時ハ豫メ日本領事ノ瞭解ヲ得ベシ

一九一五年ノ條約(二十一箇條要求)ヨリ判斷スルニ日本ガ確カニ滿洲ニ於ケル保護國ノ獨立ヲ企圖シテ居タト云フコトハ明白デアアル支那政府ハ之等條約ハ何等效力アルモノニ非スト主張シタノデアアル

政府ハ右條約印後直ニ公式抗議書ヲ發シ萬一此ノ條約締結ニ因リ諸外國ノ條約上ノ権限ガ侵害ヲ受ケルコトアリトモ支那ハ其ノ責ニ任ゼス且支那ノ獨立領土保全及現狀維持並支那ニ於ケル各國商工業ノ機會均等主義ニ關スル各種國際條約ノ如何ナル改訂ニモ同意スルコトヲ得スト聲明シタノデアアル

此ノ問題ハ一九一九年巴里會議ニ際シ支那側ヨリ提出サレタルガ之ニ對シ何等方法ヲ講ズルニ至ラナカッタ一九二一―二二年ノ華府會議ノ

際支那ハ此ノ問題ノ解決ニ適當ナル時機ノ到來スル迄一九一五年ノ條約上ノ權限ノ保留ヲ宣言シタガ結局一九一五年ノ條約ハ共和憲法上必要ナル支那議會ノ承認ヲ待ナカツタノデアアル

却テ一九二三年一月支那議會ハ旅順大連ノ租借期限滿了ノ近ヅキツアルコトヲ考慮シ公式ニ一九一五年條約無効ノ決議案ヲ採擇シ政府ニ對シ此ノ決議ニ基キ行動スル様要求シタ故ニ政府ハ一九二三年三月十日日本政府ニ通牒ヲ發シ該條約ハ既ニ充分ナル解決ヲ遂ゲタル部分ヲ除キ之ガ效力ヲ消滅セシムベキ旨ヲ通告シタノデアアルガ日本政府ハ之ニ對シ協定ハ有效ナリトシテ強硬ナル態度ニ出デタノデアアル

兎ニ角滿洲ニ關スル日支條約ハ全般的ニ複雜ニシテ問題ヲ釀成シ勝チデアル同時ニ此ノ問題ハ殆ンド總テ調定トカ仲裁裁判等ヲ必要トスル性質ノモノデアアルコトハ明カナルトコロチアルガ之ガ解決ニ武力ヲ用

朝鮮總督府

ヒルコトハ決シテ正當ナルコトデハナイ

聯盟規約ハ此點ニ重キヲ置キ其ノ第十三條第二項ニ左ノ如ク規定シテキルノデアアル

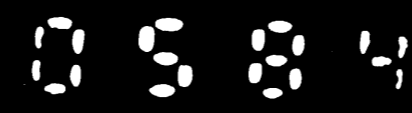
「條約ノ解釋、國際法上ノ問題國際義務ノ違反トナルベキ事實ノ存否並該違反ニ對スル賠償ノ範圍及性質ニ關スル紛争ハ一般ニ仲裁裁判又ハ司法的解決ニ附シ得ルモノナルコトヲ聲明ス」

尙一九一五年條約ニ關シ一九一五年五月十三日米國政府ハ日本及支那政府ニ對シ次ノ如キ同文通牒ヲ發シタノデアアル

「日支兩國間ニ約定ヤラレ成ハ目下懸案中ノ交渉ノ事情ニ鑑ミ米國政府ハ中華民國政府ニ左ノ事項ヲ通告ス

支那ニ於ケル米國並其ノ國民ノ條約上ノ權利並中華民國ノ政治領土保全或ハ支那ニ於ケル各國ノ權利即チ門戶開放主義ヲ侵害スルガ如

朝鮮總督府



キ日支間ノ條約又ハ協定ニシテ既ニ締結サレタルモノ或ハ將來締結サルベキモノハ之ヲ承認スルコトヲ得ス

朝鮮總督府

第三章 一九三一年九月十八日以後ニ於ケル諸事件

一 日本軍隊ノ攻撃

一九三一年九月十八日夜日本軍隊ハ何等ノ警告ヲモ發セズ突如奉天近傍ノ支那軍隊ニ砲火ヲ浴セ武器庫並兵營ヲ砲撃シテ之ヲ掠奪シ彈藥庫ニ放火シ更ニ長春、寬城子其他ノ地ニ於テ支那兵ノ武装解除ヲ始メタノデアル更ニ日本軍ハ四十八時間内ニ安東其他前記都市ヲ占領シ且ツ鐵道沿線ノ軍事主要地ヲ奪取シ遂ニ日本ハ其ノ面積英帝國ニモ等シキ區域ヲ完全ニ占據スルニ至ツタノデアル

二 日本ノ陰謀ト暴舉

日本ノ軍事行動カスノ如ク圓滑敏速ニ遂行サレタノハ一ニ日本ノ陰謀ニ基クモノデ之ハ各方面ノ確認スル所デアル

朝鮮總督府

朝鮮總督府

聯盟理事會ニ於テモ之ニ關スル報告ニ接シタノデアルー一九三一年十月二十日ノ理事會ニ對スル報告ニハ著名ナル米國人ロバート、ルイス氏ノ電文ノ記載ガアル之ニ依レバ

「余ハ九月十八日（金曜日）夜日本軍輸送ノ七列車ガ安東ヲ經由シ朝鮮ヨリ滿洲ヘト疾走スルノヲ見タ吏ニ九月十九日（土曜日）同様軍隊輸送ノ四列車ガ通過シ九月二十日（日曜日）ニ於テ八列車ガ滿洲ヘ向ツタノデアアルガ此ノ列車ニヨリ滿洲ヘ輸送サレタル軍隊ハ即チ滿洲侵略軍ノ一部デアアル」

支那政府代表施肇基氏ハ十月十三日シヤウツド、エツテイ氏ヨリノ電報ニ接シタガ之ニハ

「余ハ日本ノ奉天占領當時其ノ地ニ居ツタガ余ノ目撃シタ所ニ依レバ日本軍ノ行動ガ豫メ充分ナル計畫ノ下ニ行ハレタコトハ到ル處

569 ( 0570

朝鮮總督府

チ立證サレタ。日本軍ハ撤兵スルドコロカ却ツテ南滿洲ニ於ケル軍事上重要地點ヲ悉ク占據シ更ニ進ンテ錦州ニ燦撃ヲ加フルニ至ツタ余ハ日本ガ滿洲ニ於ケル其ノ僥倖的國家獨立ヲ策シテキタ證據ヲ擧グルコトガ出來ル余ハ日本ノ勢力ニ依ツテ獨立國家ノ主權者ニ祭リ上ゲラレタル滿洲ノ支那瓦頭連トノ會見談ヲ記載シタル聲明書ヲ發表シタ支那人ノ日本ニ對スル公憤ハ「ボイコット」トナツテ現ハレタノデアアルサレバ支那政府トシテモ之ヲ禁止スルコトハ出來ナイ

南京政府ハ尙平和的無抵抗主義ヲ執ツテ居ルガ萬一平和的解決ガ絶望トナレバ南京政府ハ危險ニ瀕スルコトハ明デアツテ事態ハ益々險惡トナルニ相違ナイ

極東ハ今ヤ國際聯盟トケロツグ條約締結國ノ行動開始ヲ期待シテ

570 ( 0571

キル。亞細亞ハ今ヤ聯盟規約トケロツグ條約ガ日支兩國間ニ適用  
 サルベキコトヲ信ズルノデアアル萬一聯盟國並ケロツグ條約締結國  
 ニシテ此ノ戰爭ノ危機ニ瀕セル重大時局ニ警感シ得ズンテ露國ノ  
 聯盟加入ヲ認メンカ共產主義ノ脅威恐ルベキモノガアラウ」  
 日本ノ此ノ陰謀問題ニ關聯シテ九月十九日朝出版ヤル朝用新聞チヤ  
 パン、タイムズ紙ノ滿洲ニ關スル特別附錄記事ハ極メテ興味アルモ  
 ノデアアル 同附錄ハ大要ヲ見出ノ下ニ滿洲ニ於ケル日支衝突避  
 クベカラズ滿洲又第二ノ朝鮮トナルハ明カナリト論ジテキタ  
 日本軍ノ不意打ノ攻撃並暴舉ニ關シ一九三一年九月二十四日ノ理事  
 會文書ニ左ノ如キ記載ガアル  
 「公主嶺、吉林ニ在リタル日本軍ハ再ビ支那軍ニ對シ攻撃ヲ開始シ  
 タ吉林市ニ於ケル支那人屠殺ノ狀況ハ奉天ニ於ケルヨリモ一層甚

571 ( 0572

シク醫界ノ僅デアツタ支那文武官ノ殺戮サルルモノ二百ニ達シ長  
 春ニ於テモ支那文官又此ノ厄ニ逢ツタノデアアル其ノ一例ヲ舉グレ  
 バ長春市政府長、張裕閔氏ハ銃彈ヲ七箇所ニ受ケ銃創五十一ニ達  
 シ路傍ニ其ノ死骸ガ横タハツテ居タノデアアル 氏ノ家族十五名又  
 同様ノ難ニ逢ツタ 長春ヲ占領スルニ至リ日本軍ハ五時間内ニ二  
 十回ノ爆彈投下ヲ行ヒ幾多ノ家屋ヲ破壊シタ」  
 日本軍ハ平時何等防備無キ都市ニ對シ文明國民ノ行フ改革手段タル  
 空中爆撃ヲ幾度トナク敢行シタ（長春、錦州、寬城子ノ爆撃ハ其ノ  
 最モ甚シキモノデアアル）  
 日本ノ關北爆撃（上海ノ人口稠密ナル地點）日本陸軍隊ノ放火並ニ  
 消防隊出勤ノ阻止等ノ事實ハ未ダニ吾人ノ記憶ニ新タニシテ之ガ爲  
 幾多罪ナキ老弱女ノ生命ガ奪ヒ去ラレタノデアアル

572 ( 0573





九月十八日以來滿洲ニ於ケル日本軍ノ行動タルヤ皆斯ノ如クデア  
 斯ル行動ヲ採ルニ至ツタ原因トシテ日本ハ一線路上ノ枕木ガ取外サ  
 レタ事ヲ擧ゲテ居ルカスノ如キ些細ナル事カラシテ九月十八日ノ事  
 件ハ勃發ヲ見ルニ至ツタノデアアル然シナガラ此處ニ注意スベキハ支  
 那政府ハ兩滿洲鐵道ニ對シ延モ斯ノ如キ防衛行爲ヲ爲シタコトハナ  
 イノデアアル從ツテ支那政府トシテハ日本政府ニ對シ該事件ノ真相調  
 査ヲ交渉シタノデアアルガ日本政府ハ之ヲ拒絕シタノデアアル。  
 前記ロバート、ルイス氏ノ電文ニ於テ明白ナル如ク日本ハ九月十八  
 日事件勃發前ニ於テ既ニ其ノ軍隊ヲ朝鮮國境ヨリ滿洲ニ輸送シツ  
 アツタノデアアル

三 支那ノ提議ト九月三十日決議  
 支那政府ハ一九三一年九月二十一日理事會ニ聯盟規約第十一條ノ適

573 ( 0574

用ヲ要求シ更ニ日本ハ至急左ノ手續ヲトルベント提議シタ

(一) 兩國家間ノ平和ヲ危殆ニ瀕セシムルガ如キ事態ノ擴大ヲ防止スル  
 コト

(二) 戰前ノ狀態ニ現下ノ狀態ヲ克復セシムルコト

(三) 支那共和國ニ支拂ハルベキ賠償金額並ニ其ノ性質ヲ決定スルコト  
 更ニ支那政府ハ如何ナル點ニ於テモ理事會ニ服從シ其ノ裁決ヲ遵守  
 スベキ旨ヲ聲明シタノデアアル而シテ理事會ハ該問題ニ關シ種々熟議  
 ヲ重ネタル結果所謂一九三一年九月三十日ノ決議トナツタガソレニ  
 對シテ日本政府ハ同意シ且ツ義務ヲ負フベキモノデアアル即チ

(一) 理事會議長ガ日支兩國ニ送致シタ緊急通告ニ對スル兩國ノ回答及  
 該通告ニ從ヒ爲サレタル措置ヲ了承ス

(二) 日本方滿洲ニ於テ何等領土的目的ヲ有セサル旨ノ日本政府ノ聲明

574 ( 0575

ノ重要ナルヲ認ム

- (三) 日本政府ハ其ノ臣民ノ生命ノ安全及其ノ財産ノ保護カ有效ニ確保セラルルニ從ヒ既ニ開始セラレタル日本軍隊ノ鐵道附屬地内ヘノ撤退ヲ出來得ル限り速カニ續行スヘク敢モ短期間内ニ右ノ意圖ヲ實現セシムコトヲ希望スル旨ノ日本代表ノ聲明ヲ了承ス
- (四) 支那政府ハ日本軍隊カ撤退ヲ續行スレバ鐵道附屬地外ニ於ケル日本臣民ノ安全及其ノ財産ノ保護ノ責任ヲ負ヒ且支那地方官憲及警察官ヲ再ヒ整備スル旨ノ支那代表ノ聲明ヲ了承ス
- (五) 兩國政府ガ兩國間ノ平和及良好ナル了解ヲ提議スル虞アル一切ノ行爲ヲ避ケンコトヲ欲スルヲ信ジ兩國政府ハ各自ニ事件ヲ擴大シ又ハ事態ヲ悪化セシメザル爲ニ必要ナル一切ノ措置ヲ執ルベシトノ保證ヲ日支兩國代表ヨリ與ヘラレタル事實ヲ了承ス

575 0576

内兩當學國ニ對シ兩國間ノ平常關係ノ恢復ヲ促進セシムコトヲ要求シ且前記約定ノ履行ヲ續行且速ニ完了スル爲兩國カ一切ノ手段ヲ盡スベキコトヲ求ム

- (七) 兩當學國ニ對シ事態ノ進展ニ關スル完全ナル情報ヲ屢々理事會ニ送ランコトヲ求ム
- (八) 緊急會合ヲ餘儀ナクスルカ如キ未知ノ事件發生セザル限り十月十四日(水曜日)同期日ニ於ケル事態審査ノ爲更ニ壽府ニ會合ス
- (九) 理事會議長カ理事國特ニ兩當學國代表ノ意見ヲ求メタル後事態ノ進展ニ關シ當學國又ハ他ノ理事國ヨリ得タル情報ニ依リ前記理事會招集ノ必要ナシト認メタル場合ニ於テハ右招集ヲ取消ス權限ヲ議長ニ附與ス

576 0577

本決議案文採擇ニ際シ理事會議長ハ一九三一年九月二十九日ノ總會ニ於テ日本代表ノ承諾ヲ得左ノ如キ聲明書ヲ發表シタ

「余ハ就中主要ナル點トシテ左ノ諸點ニ言及セント欲ス即チ

(一) 日本政府並日本代表ハ日本方滿洲ニ對シ軍事的占據ノ意圖ヲ有セザル旨ヲ聲明セシコト

(二) 日本政府ハ累次理事會ニ於テ日本臣民ノ安全ヲ確保サルルニ至ラバ速ニ其ノ軍隊ヲ鐵道附屬地内ニ撤退セシムベキコトヲ聲明シタルコト

(三) 日本ノ此ノ聲明ハ昨日理事會ニ於ケル日本代表ノ宣言ニ從ヒ既ニ此處二日間ニ實行サレ鐵道附屬地以外ノ地ニ於テハ數ヶ所ヲ除キ日本軍ハ駐屯シ居ラザルコト

理事會ハ日本政府ノ此ノ際聲明ヲ信賴シ此ノ結局ニ際シ世界平

577 ( 0578

和確立ノ爲ニハ當學國ノ誠意並國際條約遵守ノ精神ヲ最上ノ保證ナルコトヲ茲ニ確信スルモノデアアル」

四 錦州爆撃ト日本軍ノ宣言

日本ハ前記ノ聲明ニ反シ十月ノ理事會開催直前ニ於テ錦州ヲ爆撃シ又々理事會ニ一波紋ヲ投ジタノデアアル

錦州ハ張學良ガ主宰スル奉天政府ノ假首府タリシコトハ吾人ノ記憶ニ殘ル處デアツテ日本軍ノ占據地域ヨリ遠距離ノ地ニ在ツタノデア

ル

日本軍ノ錦州攻撃タルヤ人命其ノ他ニ多大ノ損害ヲ與ヘタノデアツタ而シテ支那政府ハ理事會ニ對シ錦州爆撃當時日本軍ノ撤布ヤル貼札ノ宣言文ヲ報告シタ其ノ内容ハ即チ

「彼ノ傲慢不遜ニシテ貪慾極リナキ張學良ハ自己ノ惡徳行爲ヲ未

578 ( 0579

朝鮮總督府

ダニ目覺セズシテ錦州ニ假政府ヲ樹立シ以テ日本帝國軍隊統制下ニアル地方ノ安寧秩序ヲ擾亂セント陰謀ヲ企テ居レリ

滿洲三千萬ノ民心ハ已ニ張學良ヲ離レ其ノ地盤ハ今ヤ動搖シ始メ東北四省ノ民ハ反抗ノ態度ヲ示スニ至ツタ日本軍ハ正敵ノ名ノ下ニ彼等ノ利益並生命ノ保護ヲ保證スルモノニシテ張學良ノ樹立セシ假政府ノ如キモノニハ斷乎トシテ之ニ彈壓ヲ加フルノデアアル

錦州市民ハ日本軍ノ温情ト武威ニ頼リ張學良政府ノ排撃ニ努ムベキデアアル然ラザレバ錦州市民ハ日本軍ニ敵對スルモノトシテ日本帝國軍ハ錦州攻撃ヲ開始スベシ

錦州市民ヨ充分考慮スベシ而シテ最善ノ措置ヲ講スベシ

以上ノ如キ日本軍ノ宣言ハ同國ノセネバニ於ケル聲明ニ反シ頗ル凄味アルモノデアアル

579 0580

朝鮮總督府

之ニ關シセシル輝ハ理事會ニ於テ左ノ如ク述ベタ

「英國政府ハ日本ノ錦州燬撃ニ依リ一層ノ危機ノ念ヲ強クシタカスノ如キ事件ノ解決ヲ國際法ニ俟ツコトハ如何ニ難事デアアルカヲ痛感スル」

更ニ日本軍ノ暴擧ノ證據トシテ一九三一年十月二十日支那政府ハロバートルイス氏ヨリノ電文ヲ理事會ニ提出シタコレニ依レバ

「目下日本軍ハ全力ヲ傾倒シテ鐵道附屬地外ノ各主要都市（北ハ吉林、洮南ニ及ビ東ハ朝鮮ヨリ西ハ蒙古ニ至ル）ノ占據ニ努メツツアリ而シテ蒙古諸王族ニ調印ヤシメテ其ノ權利ヲ剝奪シ以テ該地方ニ日本保護ノ下ニ獨立政府ヲ樹立セント企圖シツツアリ日本軍ハ何等抵抗力ナキ支那國民政府ノ倒壊ヲ企テ強制的ニ支那人ヲシテ滿洲主要地ニ傀儡的獨立政府ヲ樹立ヤシメント

580 0581

シテキルノデアル

日本軍ハ公然ト滿洲ニ於ケル支那國民ノ存在並其ノ行政權ヲ否認シツツアル更ニ日本軍ノ暴舉ニ至リテハ支那銀行ノ諸積立金及諸預リ金或ハ諸商館ノ存料並幾多軍事上產業上ノ必需品ヲ沒收ヲ行ツタノデアアル又彼等ハ懸命ニ電信其ノ他ノ通信機關ヲ設置シ以テ支那ノ通信事務ヲ遮斷シ或ハ支那ノ通信機關ノ諸設備ヲ完全ニ其ノ掌中ニ收メ支那ノ郵便局ニ於テ自國ノ通信事務ヲ開始シタノデアアル又支那ニ於ケル各新聞檢閲、監督權モ亦日本ノ手ニ歸シタノデアアル

日本軍ハ十月十三日夜奉天ヨリ軍隊輸送ノ四列車ヲ西部ニ送り京奉線ヲ占領シ而シテ滿洲ニ於ケル他ノ鐵道モ悉ク日本軍ノ把握スルトコロトナリ次テ十月十四日ニ至リテハ支那探礦事務所

朝鮮總督府

581 ( 0582

ヲ發ヒ一萬五千ノ從業員ヲ誡首シタノデアアルセネヴアニ於テ理事會ガ懸命ニ事件解決ニ努力ヤル間ニ日本軍ハ漸次占據ノ手ヲ伸バシ遂ニハ支那高官ノ邸宅其他官衙等支那國有財産ノ占領ヲ始メルニ至ツタノデアアル

五 十月二十二日決議

十月再ヒ日支紛爭事件ニ關シ國際聯盟理事會ガ開催サレ此ノ會議ニ於テ當事國以外ノ理事國ハ「一九三一年十月二十二日ノ決議案」ヲ提出シタノデアアルガ之ニ依リ從來ヨリ日支兩國ノ立場ハ明白トナツタノデアアル而シテ支那側ハ該決議案ヲ採擇サルニ反シ日本側ハ遂ニ之ヲ拒絶スルニ至ツタノデアアル

右決議文ハ即チ

理事會ハ九月三十日採擇ノ決議ニ從ヒ且支那政府ガ聯盟規約第十一

朝鮮總督府

582 ( 0583

條ノ適用ヲ要請シ加フルニ多數ノ政府ガ巴里規約第二條ヲモ適用スベシト提唱ヤシコトヲ認メ

(一) 九月三十日ノ決議中ニ兩國政府カ爲セル協約特ニ日本國政府ハ日本ノ生命ノ安全並其ノ財産ノ保護カ確實ニ保證ヤラルル範圍ニ於テ鐵道附屬地内ニ其ノ軍隊ヲ撤收ヤシカ爲出來得ル限り速ニ其ノ撤退ヲ續行スベシトノ日本代表ノ聲明並附屬地外ノ日本人ノ安全及其ノ財産ノ保護ニ對スル責任ヲ負フベシトノ中國代表ノ聲明ニ付注意ス右中國代表ノ聲明ハ同政府ニトリ滿洲在住ノ日本人ニ對シ確實ナル保護ヲ保證スルノ約束ヲ含ムモノナリ

(二) 尙兩國政府カ事態ヲ惡化ヤシムル虞アル一切ノ措置ヲ差控フベシトノ保證ヲ與ヘタルコト從テ兩國政府ハ總テノ侵略的ノ政策又ハ行動ヲ差控フルヲ要シ且總テノ騷擾ヲ終熄ヤシムルニ適當ナル措

583 ( 0584

置ヲ購ヤザルベカラザルコトニ注意ス

(三) 日本ハ滿洲ニ於テ何等領土の野心ヲ有セズトノ日本代表ノ聲明ニ付注意シ右聲明カ國際聯盟規約並中國ノ主權獨立及領土の行政保全ヲ尊重ヲ約セル九國條約ノ規定ニ適合スルモノナルコトヲ認ム

(四) 右保證及協定ノ實行カ兩當事國間ノ正常關係ヲ恢復ヤシムルニ緊要ナルコトヲ確信シ

甲 理事會ノ次回會合前ニ完全ナル撤退カ實行ヤラレ得ベキ爲鐵道附屬地内ニ其ノ軍隊ノ撤退ヲ直ニ開始シ漸次之ヲ續行ヤシコトヲ日本政府ニ要求ス

乙 滿洲ニ於ケル日本人ノ生命及財産ノ保護ニ關シ中國政府カ一般的ニ爲セル協定ノ實行トシテ撤退地域接收ノ爲メ同地在住ノ日本人ノ生命及其ノ財産ノ保護ヲ確保スルニ適切ナル一切ノ措置

584 0585

ヲ採ルコトヲ中國政府ニ要求シ尙右ノ目的ノ爲ニ任命セラレタル中國官憲ニ他國ノ代表者ヲ附シ之ヲシテ本件措置ノ實行ヲ監視セシメントシテ中國政府ニ勸告ス

(四) 日華兩國政府ニ對シ撤退地域接收カ整然ト且通滞ナク實行セラルル様右ニ關スル細目ヲ定ムル爲其ノ代表者ヲ直ニ任命ヤンコトヲ勸告ス

(六) 日華兩國政府ニ對シ撤退ノ完了ト同時ニ一切ノ兩國關係案特ニ最近ノ事件ニ基ク問題並ニ滿洲ノ鐵道ノ狀況ニ起因スル紛議ニ關聯スル問題ニ關シ直接交渉ヲ開始ヤンコトヲ勸告ス右目的ノ爲ニ理事會ハ兩國政府ニ對シ調停委員會又ハ他ノ同種ノ常設的機關ヲ組織ヤンコトヲ勸告ス

(七) 理事會ハ十一月十六日ニ延期スルコトニ決定ス同期日ニ於テ理事

會ハ事態ノ新ナル審查ヲ爲スヘキモ議長ニ對シ其ノ適當ト認ムルニ於テハ右期日前ニ會議ヲ召集スルコトヲ許與ス

六 支那ノ立場

支那代表施肇基氏ハ十月二十三日理事會ニ通告シテ支那政府ハ同決議(十月二十二日決議)ヲ採擇スル用意アリト述べタガ同氏ノ理事會ニ提出セル聲明書ニハ

一 支那政府ノ意見ニ依レバ十月二十二日決議ノ眞意ハ理事會ヲ十一月十六日ニ再開スルコト並日本政府ニ對シ此ノ再開前ニ完全ナル撤退ヲ實行シ得ベキ爲鐵道附屬地内ニ於ケル軍隊ノ撤退ヲ直ニ開始シ漸次之ヲ續行ヤンコトヲ要求シ同時ニ支那政府ハ支那官憲ニ命ジテ日本軍撤退地域接收ノ爲メ同地在任ノ日本人ノ生命ノ安全及其ノ財産ノ保護ヲ確保スルニ適切ナル一切ノ措置ヲ採ラシメ且

朝鮮總督府

該支那官憲ニ他國ノ代表者ヲ附シテ本件措置ノ實行ヲ監視ヤシム  
 ベキナリト云フ點ニ在ルト考ヘラルルガ支那政府ハ同決議ヲ採擇  
 シ其ノ爲スベキ義務ヲ遂行スル用意アルコトヲ茲ニ宣言スルモ  
 デアル。支那政府ハ喜ンデ其ノ義務ノ遂行ニ當リ直チニ支那官憲  
 ノ接收ヤル地域ニ於ケル日本人ノ生命財産ノ保護ノ爲凡ユル措置  
 ヲ講ジ以テ日本官憲ノ危惧ヲ一掃スベシ  
 余ハ斯ノ如キ危惧ハ一ツノ杞憂ニ過ギザルコトヲ確信ス日本軍占  
 據地ノ無秩序ニ陥リシハ結局日本軍ノ占據ニ基クモノナレバ其ノ  
 占據ノ續行スル限り其ノ治安回復ハ不可能デアル此ノ點ニ關シ日  
 本政府ガ危惧ノ念ヲ抱クハ尤モナルコトナルモ余ハ日本政府ニ對  
 シ支那政府ハ此ノ危惧ノ念ヲ一掃スルコトヲ衷心ヨリ希望シ居ル  
 モノナルコトヲ斷言スルモノデアアル

587 0588

朝鮮總督府

之ガ爲余ハ中立國ノ委員ヲ招聘セントスル提案ヲ承諾シタノミナラ  
 ズ更ニ日本ノ代表及ソノ他ノ理事國ニ對シ支那政府ハ若シ滿洲ヲ支  
 那ニ返還シタルトキハ衷心ヨリ協調的精神ヲ以テ第三國委員ヲ招聘  
 スル手續ヲ採リ直チニ右現地ニ於ケル日本人ノ生命財産ヲ保護スベ  
 キ他ノ條約ヲ喜ンデ締結シ日本政府ガ在滿日本人ニ對シテ抱ク危惧  
 ノ念ヲ一掃スルコトニ努力スルコトヲ誓ツタデアラウ  
 前記決議案中ニ記載セラレタル撤退並撤退地域接收ナル語ノ意味ハ  
 凡テノ日本軍隊(軍隊、憲兵隊、警察隊各種空軍等)ノ撤退ヲ意味  
 スルモノニシテ九月十八日以降日本軍ニヨリテ占領セラレタル凡ユ  
 ル支那ノ財産ノ返還更ニ支那官憲、市民、銀行其他商工業商館ニ對  
 スル日本ノ拘束撤回ヲ行フコトデアアル  
 換言スレバ現下ノ狀態ヲ戰前ノ狀態ニ復歸ヤシムルコトデアアル

588 0589



余ハ茲ニ支那政府ガ緊急ナル問題ト思考スル他ノ事項ヲ述ベヤウ  
 右決議案第六條ニヨレバ現在ノ理事會ニ於テハ日本軍ノ撤退ガ先ツ  
 問題ニシテ撤退完了後ニ至ラザレバ何等他ノ提案ヲナシ得ザルハ明  
 白ナコトデアアル乍然余ノ今茲ニ支那政府ノ意見ヲ代表シテ言及ヤン  
 ト欲スル事ハ撤退問題以外ニ現下ノ問題ニ直接關係ヲ有スル九月十  
 八日以來ノ事件ノ責任問題並損害賠償問題デアアル  
 支那政府ハ此ノ問題ニ就テハ聯盟規約及其ノ前例ニ基キテ第三國ノ  
 嚴格ナル批判ヲ希望スルモノデアアル  
 滿洲ニ對スル軍事の侵略問題ヲ他ノ問題同様取扱ヘントスルハ聯盟  
 規約並巴里條約ノ精神ニ悖ルモノデアリ此ノ點ハ極メテ重要ナル事  
 デアツテ理事會ニ於ケル論争ノ根源ヲ成スモノデアリ而シテ聯盟規  
 約並巴里條約ヲ引用スル場合ニ於テモ重點ハ此處ニアルノデアアル

589 ( 0590

故ニ支那政府トシテモ此ノ點ヲ重視シ之ヲ根本的問題ナリト主張ス  
 ルモノデアリ更ニ余ハ聯盟國並巴里條約國ガ支那ニ對シ充分ニシテ  
 無條件ナル道德的援助ヲ惜シマザルコトヲ確信スルモノデアアル  
 支那ト他國トノ間ノ問題ハ常ニ聯盟規約及巴里條約ニ定メタル支那  
 ノ權利義務ヲ基調ト且ツ一九二二年ノ華府會議ニ於テ論ゼラルベク  
 定メラレタル條約ノ趣旨モ亦尊重サルベキハ言フ俟タザル所デアアル  
 最後ニ一言シテキ事ハ不幸ニシテ惹起セル現下ノ事件ガ解決シ日支  
 國交ガ常態ニ復スルニ至ラバ支那政府ハ從來幾多懸案トナレル諸問  
 題解決ニ友誼的感情ヲ以テ善ンテ努力スルモノデアアル支那ノ望ム處  
 ハ世界各國ノ平和ニシテ特ニ隣邦日本ニ對シテハ今回ノ事件解決ヲ  
 契機トシテ一層ノ親善ヲ圖リ以テ極東永遠ノ平和確立ニ邁進ヤント  
 欲シテヤルノデアアル此ノ精神ヲ有スレバこそ支那政府ハ衷心ヨリ理

590 0591

事會提案ニ賛成シ且國際間ノ條約協定ノ義務ヲ履行シ更ニ日支關係好轉ノ爲幾多過去ノ苦キ經驗ヲ忘レ希望アル將來ニ向ヒ能フ限リノ努力ヲ拂ハントスルモノデアル

七 聯盟規約第十條ト巴里條約第二條

聯盟規約第十條ニ關シテハ特ニ解釋ノ必要ヲ認メザル所デアツテ即チ同條ニ依レバ各聯盟國ハ相互ニ其ノ領土保全及現在ノ政治的獨立ヲ尊重シ絶體ニ之ヲ侵略シ又ハ脅カスガ如キ行動ニ出デザルコトヲ誓ツテキルノデアル

茲ニ引用スル巴里條約第二條ノ意義モ亦極メテ明瞭デアル即チ巴里條約締結國ハ締結國間ニ惹起サル紛争ニ關シテハ其ノ性質原因ノ如何ヲ問ハズ必ズ平和的方法ニ依リ之ガ解決ニ當ルベキコトニ同意スルコトトナツテキル

591 0592

以上ガ理事會ニ於テ論議サルルニ至ツタ點デアツテ締結國ニ於ケル紛争ヲ平和的解決方法以外ノ方法ヲ以テ取扱ハントスルハ締約ノ趣旨ニ反スルモノデアル

八 仲裁裁判ニ於ケル日支兩國ノ立場並ニ條約上ノ權限ニ對スル尊重

理事會ニ於テセシル獨ノ指摘シタル所ニ依ルト「聯盟規約ハ國際聯盟ノ主要目的ノ一トシテ正義ノ維持ト從來締結サレタル諸條約ノ義務遵守ヲ規定シタ其ノ規約ノ效力並解釋ニ關シ當事國間ニ意見ノ相違ヲ醸成スルガ如キコト無シトハ云ヘナイカスル場合ニ於テハヘーダノ國際仲裁裁判ヲ解決ノ法ヲ講ジ得ルモノデアル而シテ其ノ仲裁裁判ガ問題處理ニ當リテ公平無私ノ態度ヲ執ルコトハ言フ俟タナイ所デアル」

理事會散會直後支那代表ハ理事會長ニ左ノ如キ答翰ヲ送ツタ

592 0593

「今明理事會ニ於テ英國代表ノ言及ケン條約義務遵守ニ關スル點ニ付テハ衷心ヨリ贊意ヲ表スルモノデアリ且本國政府ノ命ニ依リ次ノ如キ聲明ヲ發ス

支那ハ諸聯盟國ト同ジク聯盟規約ニ基キ各條約遵守ノ義務ヲ有スルモノニシテ即チ規約ノ定ムル所ニ從ヒ凡ユル義務ノ履行ニ忠實ナルモノデアアル而シテ此ノ誠意ヲ表明ケンガ爲規約第十三條ニ規定スルガ如ク日支紛争事件ヲ仲裁裁判ノ條約解釋權ニ基キ解決ヤントスルモノデアリ之ガ爲支那政府ハ最近米國或ハ聯盟國間ト締結セルガ如キ仲裁裁判條約ヲ日本ト締結スルコトヲ喜ブモノデアアル」

一九三二年一月二十九日ノ理事會ニ於テ支那代表ハ日本ガ規約第十條ニ規定スル義務ヲ履行セザル旨ヲ述ベタノデアアルガ同條ニ依レ

593 (0594)

ハ聯盟國ハ紛争事件ヲ仲裁裁判又ハ聯盟理事會ノ審査ニ付シ之ヲ職争ニ訴ヘザル様方法ヲ購ズベキ義務ヲ負フナ居ル之ニ對シ日本代表ノ回答ハ即チ

「支那代表ハ日本ハ日支紛争事件ニ關シ之ヲ規約第十二條ニ基ク仲裁裁判ニモ附セス或ハ又其ノ他ノ平和的解決方法ヲモ購ジナカツタト主張シタガ之ハ全ク事實デアルシカシ日本ハ各國ト無關係ニ仲裁裁判ニ附ヤセラルル意思ナシト云フコトハ周知ノコトデアアル」  
以上ノ日本代表ノ答辯ハ日本ガ規約第十二條違反ヲ公式ニ認メタルモノト云フベキデアアル

九 直接交渉問題ニ關スル支那ノ立場

支那政府ノ見解ニ依レバ此ノ問題ハ根本的問題デアリ且不幸ニシテ日本政府ハ武力的解決ノ意思ヲ放棄セリト信スベキ根據無キヲ以テ

594 (0595)

此問題ニ關シ支那ノ立場ヲ今少シク説明スル必要ガアル而シテ此ノ説明ニ當リテハ世界大戰後膠州ニ於ケル日本ノ立場ト現在ノ滿洲ニ於ケル日本ノ立場トノ類似點ヲ識別スルコトハ特ニ重要ナル事デア  
ル駐府會議當時日支兩國ハ日本軍ノ山東ニ於ケル前獨進租借地膠州ヨリ撤退スベキコトヲ協定シタルガ此ノ協定ニ數ヶ月ヲ要シ爲ニ幾多ノ政治的、經濟的問題ヲ惹起スルニ至ツタ

十 山東問題ノ表面的類似

乍然一九二二年ノ膠州ニ於ケル日本ノ立場ト今日ノ滿洲ニ於ケル日本ノ立場トハ根本的ニ異ルトコロガアル  
世界大戰中日本ガ膠州ヲ占領シタルハ對獨行爲トシテ正當ナルモノデアツナベルサイユ講和條約ニヨリ政治的ニ是認サレタノデアアル  
平時ニ勃發セル滿洲侵略ハ何等國際的承認ヲ得ズシテ行ハレ從ツナ

聯盟規約、講和條約、九ヶ國條約等ニ違背セルモノト云フベキデア  
ル 山東問題ニ關シテハ支那政府ハ山東ニ於ケル其ノ權利ヲ日本ニ讓渡スベク餘儀ナクサレタノデアツタガ日本ノ滿洲占據ニ基キ日本ト交渉スルトヤバ日本ノ條約違反ヲ許容スルノミナラズ支那トシテモ事實上條約義務違反トモナルノデアアル此ノ事ハ一九三二年一月八日米國ガ日支兩國ニ發セル通牒並理事會長ガ一月二十九日當軍國ヲ除ク各聯盟國ノ名ニ於テ爲シタル宣言ニ依リ明白ニ暴露サレルノデア  
ル即チ之等ニ依レバ講和條約ニ背馳スルガ如キ解決法及其ノ性質上規約第十條或ハ九ヶ國條約ニ違反スルガ如キ解決法ハ米國又ハ國際聯盟ノ承認セザルトコロデアアルト云フノデアアル

十一 日本ノ武力行使ノ意思否認並基礎的大綱ニ基ク主張

十月理事會直後日本政府ハ理事會ニ對シ十月二十六日附書翰ヲ以テ

左ノ如キ通告ヲ發シタ

「今次ノ滿洲事變カ全ク中國軍意ノ挑發的行動ニ起因セルコトハ帝國政府ノ累次宣明セル所ニシテ帝國軍隊ノ少數部隊カ目下尙滿鐵附屬地外數ヶ所ノ地點ニ駐屯スルハ帝國臣民ノ生命財產ノ保護ノ爲メ萬已ムヲ待サルニ出テタルモノナリ素ヨリ之ヲ以テ帝國ハ紛争解決條件ヲ中國ニ強制スルノ手段トナス意思アルニ非ス兵力的威壓ヲ以テ中國トノ交渉ニ臨マムトスルカ如キハ蓋モ帝國政府ノ豫想セサル所ナリ」

又日本ハ支那諸學校ニ於テ排日ノ思想ヲ公然鼓吹スルガ如キ教科書ヲ使用シ以テ支那人ノ心中深ク排日思想ヲ植付ケ日本ノ權益サヘ破壞セントスル傾向ニアル此際軍隊全部ノ撤退ヲ行フガ如キハ日本帝國臣民ノ安全ヲ危險ニ曝スモノデアルト抗辯シ軍隊ノ撤退ヲ行フカ

朝鮮總督府

597 ( 0598

朝鮮總督府

爲メニハ先ツ兩國ノ國民的反感及憂惑ヲ除クノ方法ヲ講ズルノ外ナシトシ之ニ必要ナル基礎的大綱ノ協定ヲ行フベキデアルト聲明シテ即チ其ノ大綱ハ左ノ五項目ヲ指スノデアアル

(一) 相互的使略政策及行動ノ否認

(二) 中國領土保全ノ尊重

(三) 相互ニ通商ノ自由ヲ妨害シ及國際的憎惡ノ念ヲ煽動スル組織的運動ノ徹底的取締

(四) 滿洲ノ各地ニ於ケル日本帝國臣民ノ一切ノ平和的事業ニ對スル適切ナル保護

(五) 滿洲ニ於ケル日本帝國ノ條約上ノ權益尊重

以上ノ日本政府ノ答翰ニ於テ日本ハ本紛争事件交渉中武力ニ訴ヘルガ如キ意思ナシト聲明セル點ニ支那政府ハ満足ノ意ヲ表シタノデア

598 ( 0599

ルガ然シコレガ日本政府ノ意見ナリトヤバ日本軍隊ノ撤退前ニ於テ  
 ハ日本ハ支那ニ兩國ノ全關係ヲ支配スル基本的大綱ニ基イテ日本ニ  
 同意スベシト云フ要求ヲ提出スル事ヲ差控フベキデアル

十二 日本軍占據ノ擴大

然ルニ日本ハ前記聲明ニ反シ軍隊ヲ派遣シ漸次侵略ノ魔手ヲ伸シ日  
 本ノ勢力下ニアル傀儡官憲ヲ起用シ且ツ支那正規官憲ヲ相次イテ連  
 放殺戮シタ。銀行企業會社或ハ行政機關等凡ユル種類ノ機關ノ顧問  
 支配者ハ日本人ヲ以テ當テ鹽稅ハ日本軍之ヲ沒收シテ支那傀儡官憲  
 ニ渡シ又支那國民ノ所有ノ鐵山ハ沒收セラレ土地登記證書財產所有  
 權證書等ハ偽作成ハ廢棄セラレ斯クシテ土地ハ凡テ日本人ノ所有ス  
 ルトコロトナツタノデアル

支那代表ハ事態惡化ヲ憂ヘ十一月三日附書翰ヲ以テ左ノ如ク述ベタ

ノデアル。

「中國政府ハ理事會閉會後ニ於ケル滿洲ノ事態進展ヲ憂慮セルモノ  
 ナルガ別紙覺書ノ示スガ如ク滿洲ノ事態ハ十月二十四日理事會閉  
 會後十日、九月三十日理事會以來既ニ一ヶ月ヲ經過セルニ不拘日  
 本軍撤退ノ片鱗ダニ認メザルノミカ却テ日本軍ハ漸次南滿洲ニ其  
 ノ侵略ノ手ヲ伸スト共ニ北滿侵入ヲモ企圖シ爲ニモスコ―ニ於テ  
 ハ動搖ヲ來シナキル程デアル。

去ル九月三十日理事會決議ニ於テ日本政府ハ其ノ臣民ノ生命ノ安  
 全及其ノ財產ノ保護カ有效ニ確保セラルルニ從ヒ日本軍隊ヲ鐵道  
 附屬地内ニ撤收スル爲既ニ開始セラレタル軍隊ノ撤退ヲ出來得ル  
 限り速ニ續行スベシトノ承諾並誓約ヲ與ヘタノデアル

日本ハ一ヶ月以前既ニ其ノ軍隊ノ撤退ヲ開始セリト宣言セルモ事

朝鮮總督府

實ハ然ラズ日本ハ撤兵ヲ遂行セザルノミカ理事會ニ於ケル誓約ヲ無視シテ中國トノ基本的大綱ニ基ク協定成立セザル限り撤兵ヲ爲サズト宣言スルニ至ツタノデアアル

日本ノ此ノ政策ハ十月九日附中國政府宛通牒並十月二十三日、二十四日理事會ニ於ケル宣言ニ依リ發表サルルニ至ツタノデアアル。右問題ハ數日前ニ於テモ繰返サレタルモノニシテ其ノ際日本政府ハ十月二十二日理事會決議案ヲ以テ提議サレタル日本軍撤退問題ニ關シ中國代表ト合議スベキ日本代表ノ任命ヲ拒絶シタノデアアル

此ノ決議ニ依ル方法タルヤ極メテ道徳的ノモノニシテ單ニ九月三十日決議ニ基キ兩當事國ノ誓約シタル政策ノ實行方法ヲ指示セルニ過ギナイ而シテ日本政府ガ從來ノ態度ヲ一變シテ日本軍撤退ノ豫備行動トシテ直接交渉ニヨリ基本的大綱ニ同意セヨト主張スルニ至ツタ

601 ( 0602

朝鮮總督府

ノハ此レニ基クモノデアアル

日本ノ此ノ態度ハ十月二十三日並二十四日理事會ニ於テ指摘サレタ如ク明カニ聯盟規約第十條及巴里條約第二條ニ違反スルモノデアアル

中國政府ハ如何ナル情勢ニ於テモ日本軍占據ノ狀態繼續スル限り斷ジテ交渉ニ應ズルコトハナイ且中國政府ハ聯盟規約巴里條約及華府九ヶ國條約等ノ蹂躪ヤラレザル様聯盟國並北米合衆國ノ奮起ヲ心カラ願フモノデアアル

十三 十一月十二月理事會

十一月理事會ハ日本ノ齊々哈爾濱(黑龍江省首都)占據ト時日ヲ同じクテ開カレタガ同市ハ東支鐵道ノ北部ニ位シ同市ヨリ南滿洲鐵道迄ハ最短距離ヲトルモ尙數百哩ニ達スルモノデアアル而シテ日本政府ハ華府ロンドン巴里ニ於テ齊々哈爾濱占據ヲ爲サスト聲明シテキル

602 ( 0603

十四 十二月十日ノ決議ト調査委員會

十一月十二月理事會ノ結果ハ十二月十日ノ決議トナツテ表レタ  
其ノ決議文ハ即チ

理事會ハ

(一) 兩當事國ガ嚴肅ニ遵守スル旨宣育シタル一九三一年九月三十日理  
事會ノ決議ヲ再ビ確認ス依テ理事會ハ右決議ノ定ムル條件ニヨリ  
日本軍ノ鐵道附屬地圖撤收カ成ルヘク速ニ實行セラレンガ爲日支  
兩國ニ對シ右決議實施ヲ確保スルニ必要ナル一切ノ手段ヲ講ジヤン  
コトヲ要請ス

(二) 十月二十四日ノ理事會以來事態更ニ重大化シタルニ鑑ミ理事會ハ  
兩當事國ガ此上事態ノ悪化スルヲ避クルニ必要ナル一切ノ措置ヲ  
執リ又此ノ上戰國又ハ生命ノ喪失ヲ惹起スルコトアルベキ一切ノ

積極的行爲ヲ差控フベキヲ約スルコトヲ了承ス

(三) 兩當事國ニ對シ情勢ノ進展ニ付引續キ理事會ニ通報ヤンコトヲ求  
ム

(四) 其ノ他ノ理事國ニ對シ其ノ關係地域ニ在ル代表者ヨリ得タル情報  
ヲ理事會ニ提供ヤンコトヲ求ム

(五) 上記諸措置ノ實行トハ關係ナク本件ノ特殊ナル事情ニ顧ミ日支紛  
争問題ノ終局的且根本的解決ニ寄與ヤンコトヲ希望シ、國際關係  
ニ影響ヲ及シ日支兩國間ノ平和又ハ平和ノ基礎タル良好ナル了解  
攪亂ヤシムル虞アル一切ノ事情ニ關シ實地ニ就キ調査ヲ遂ゲ理事  
會ニ報告ヤンカ爲五名ヨリ成ル委員會ヲ任命スルコトニ決ス。  
日支兩國政府ハ委員會ヲ助クル爲各一名ノ委員ヲ指名スルノ  
權利ヲ有シ兩國政府ハ委員會カ其ノ必要トスヘキ一切ノ情報ヲ實



地ニ就キ入手ヤンカ爲ノ各般ノ便宜ヲ委員會ニ供與ス。兩當事國  
 方何争カノ交渉ヲ開始ヤントスル場合ニ右交渉ニ關與スルコト及  
 各當事國ノ軍事の措置ニ干渉スルコトハ本委員會ノ權限ニ屬ヤザ  
 ルモノト了解ス。

本委員會ノ任命及審議ハ日本軍鐵道附屬地内撤收ニ關シ九月三十  
 日ノ決議ニ於テ日本政府ノ爲ヤル協定ニ何等影響ヲ及ホスモノニ  
 非ス

（内現在ヨリ一九三二年一月二十五日ニ開カルヘキ次回通常理事會迄  
 ノ間ニ於テ本件ハ依然理事會ニ繫屬スルモノニシテ議長ニ於テ本  
 件經過ヲ注意シ若シ必要アラバ新ニ會合ヲ召集ヤンコトヲ求ム。

十五 上海攻撃及南京砲撃

一月理事會開會中ニ不拘日本陸海軍ハ上海攻撃ノ舉ニ出テ暴威ヲ逞

605 0606

ウシタルハ理事會ノ充分認メル所デアツテ茲ニ繰返シテ言及スル必  
 要ハナイ、日本ノ斯ノ如キ行動ニ關シ支那政府ハ聯盟規約第十一條  
 以外ニ更ニ第十條第十五條適用ノ必要ヲ痛感シタノデアアル

一月二十九日支那代表顧憲成氏ハ此ノ點ヲ力説シ左ノ如ク述べタノ  
 デアル即チ

「余ハ支那政府ノ調令ニ基キ左ノ如ク通報スルモノデアアル

（一）二聯盟加盟國間即チ日支間ノ紛争ハ日本ガ國際聯盟理事會ノ決  
 議ヲ蹂躪シテ支那ノ領土行政ノ保全並其ノ政治的獨立ヲ危殆ニ  
 瀕ヤシムルガ如キ侵略行爲ニ出デタルニ因リ惹起シタルモノナ  
 ルコトハ動カス可ラザル事實デアアル

（二）該紛争ハ聯盟規約ノ定ムル所ニ從ヒ仲裁裁判或ハ司法的解決ニ  
 附託ヤレタルコトナシ

606 0607

(三) 該紛争ニ依リ日支兩國ハ今ヤ國交斷絶ノ已ムナキ狀態ニ立チ到ツ  
 タノデアアル

(四) 支那ハ該紛争ニ對シ規約第十一條以外ニ第十條並第十五條適用ヲ  
 主張シ之ニ依リ理事會ガ適切且必要ナル措置ヲ講セラレンコトヲ  
 望ム

(四) 此ノ目的ノ爲支那ハ理事會ガ一九三一年九月十八日ヨリ現在ニ至  
 ル迄規約第十一條ニ基キ支那ガ提出シタル凡ユル該紛争ニ關スル  
 聲明書其ノ他ヲ採擇ヤンコトヲ希望ス

更ニ一月二十九日午后ノ理事會席上ニ於テ支那代表顧惠勝氏ハ左ノ如  
 ク述べタ

「一九三一年九月十八日ニ始マル日支紛争事件ノ満足ナル解決ノ爲理  
 事會ガ規約第十一條ニ基キ懸命ナル努力ヲ拂ハレタコトニ對シ支

那政府ハ滿腔ノ謝意ヲ表スルモノデアアルガ此ノ努力ノ效果ノ何等  
 見ルベキモ無カリシコトハ誠ニ遺憾ナコトデアアル

支那ハ日本ヨリ無謀ナル侵略ト急激ナル威嚇ヲ受ケタルヲ以テ規  
 約第十一條其ノ他ノ條項ノ適用ヲ要求スルモノデアアル支那ノ領土  
 及行政ノ保全ハ今ヤ全ク日本ノ蹂躪スル所トナリ且其ノ政治的獨  
 立ニ至ツテハ之又日本ノ侵略ニヨリ全ク危殆ニ瀕シテ居ルノデア  
 ル 聯盟規約ハ斯ノ如キ問題ニ對シテ斷乎タル措置ニ出ズベキモ  
 ノニシテソノ爲ニコソ各聯盟國ハ相互ニ其ノ領土の保全及政治的  
 獨立ヲ脅カスガ行爲アルベカラスト協定シテキルノデアアル

支那ハ規約第十條ノ義務ヲ履行スルモノデアアル故ニ理事會ニ於テ  
 モ此ノ義務履行ノ方法ヲ講セラレンコトヲ希望スルノデアアル之ガ  
 爲採ルベキ途ハ只一ツニシテ極メテ明白デアアル即チ理事會ハ規約

朝鮮總督府

第十條ニ規定ヤル義務ヲ遂行ヤシムル爲斷乎タル態度ニ出スベキ  
 デアル

日本ノ規約蹂躪ハ實ニ憎ムベキ行爲ニシテ該事件ヲ仲裁裁判ニ附  
 スルコトナク或ハ理事會ノ調査ノ結果ヲ待タズシテ武力行使ノ舉  
 ニ出デタルハ云フ迄モナク聯盟規約ノ明文ニ違反ヤルモノデア  
 ル今ヤ支那ハ聯盟ガ規約第十一條ノミナラス其ノ他條項ヲモ適用シ  
 斷乎タル措置ニ出デラレンコトヲ重ネテ衷心ヨリ希望スル次第  
 アル

一九三二年二月十二日支那ハ規約第十五條第九項ニ基キ該事件ヲ聯  
 盟總會ニ附託スルコトヲ要求シタ其ノ要求ハ即チ

「理事會ガ規約第十條、第十一條及第十五條ニ基キ審議シツツアル  
 日支紛争事件ニ關シテハ更ニ同規約第十五條第九項ニ基キ理事會

609 ( 0610

朝鮮總督府

ガ該紛争ヲ總會ニ附託スル權限ヲ有スルモノナルコトヲ述ブル光  
 榮ヲ有ス 同時ニ該紛争ニ關シテハ兩當事國ノ要求ヲ斟酌シ更ニ  
 右要求ハ理事會ニ附託後十四日以内ニ爲サルベシト規定シテアル  
 斯クノ如ク時日ニ制限アルヲ以テ茲ニ支那政府ハ理事會ニ提案ヲ  
 爲シ該事件ノ總會附託ヲ要求スルモノデア  
 ル

若シ理事會ニ於テ率先シテ右事件ヲ總會ニ附託シ或ハ右事件ノ性質  
 ニ鑑ミ總會ヲ招集ヤントスル意思アルニ於テハ支那政府ハ本提案  
 ヲ撤回スルモノデア  
 ル

一九三二年二月十六日理事會議長ハ日支兩國ヲ除ク他ノ聯盟國ノ名  
 ヲ以テ日本政府ニ對シ左ノ如ク通牒ヲ發シタ

「國際聯盟理事會議長ハ一月二十九日兩當事國ニ對シ其ノ聯盟國ノ  
 爲ニ(聯盟國間ノ親善關係ハ)ニ協調ト相互ノ尊重ニ依リナノミ

610 ( 0611

朝鮮總督府

獲ラレルモノデアリ苟クモ恒久的性質ヲ有スル解決ハ決シテ軍事  
的ニヤヨ經濟的ニヤヨ武力ノ使用ニ依リテハ獲得シ得ヘカラサル  
モノニシテ現在ノ情勢カ繼續スル限り益々兩國民間ノ反目ハ擴大  
セラレテ紛争ノ解決ヲ一層困難ナラシメソノ結果、單ニ直接關係ア  
ル兩當事國間ノミニ止ラズ世界全國カソノ災禍ノ中ニ捲込マレル  
事トナル一旨ヲ指摘シタ

今日日支兩國理事ヲ除ク各國理事ハ日本國政府ニ對シ現下ノ紛争  
ニ關シテ加盟國タリ且常任理事國タルノ名カ日本ニ課スル特殊ノ  
責任ト節制ノ義務トヲ同政府ニ於テ確認スル機緊急ナル要請ヲ爲  
スノ義務アリ

極東ニ於テ過去數ヶ月間ニ發生セル事態ハ兩當事國承諾ノ下ニ任  
命ヤラレタル調査委員會ニ依リ殘ル所ナク研究セラルヘシ然ルニ

611 ( 0612

朝鮮總督府

同委員會ノ組織後上海及同地方ニ於テ輿論ノ動搖ヲ激發シタル諸  
事件發生シ今猶紛糾シツツアリ之等事件ハ多數國居留民ノ生命及  
利益ヲ危險ニ曝ラン且世界カ直面ヤル危機ニ於テ遭遇スル特別ノ  
困難ヲ更ニ大ナラシメタルモノナルカ之等事件ハ軍縮會議ニ對シ  
新ナル重大障害ヲ與フルノ虞アリ

十二國理事ハ日本ノ憎ムベキ行動ニ依ツテ惹起サレタ結果ヲ認メ  
テ居ルシカシ他方十二國理事ハ日本カ國際社會ノ一員デアリ其ノ  
義務及資務ヲ常ニ遵守シテ來タ盟友デアルト云フ事ニ信賴ヲ懸ケ  
テ居ル然レトモ十二國理事ハ日本カ聯盟規約ニ定ムル平和的解決  
方法ニ基イテ問題ヲ解決スルコト能ハズト主張スル態度ニ對シ遺  
憾ノ意ヲ表サザルヲ得ズ

十二國理事ハ國際紛争ノ解決ハ決シテ平和的手段以外ニ求メラル

612 ( 0613

ベカラザル旨ノ巴里條約ノ嚴肅ナル協定ニ基キ日本ニ對シ今一應  
 注意ヲ喚起ス十二國理事ハ支那ガ其ノ領土内ニ展開ヤラレタル國  
 爭ノ當初ヨリ對日紛議ヲ聯盟ニ提出シ且平和的解決ヲ目的トスル  
 聯盟備諸提案ヲ受諾スベキ旨約セルコトヲ認メザルベカラズ  
 十二國理事ハ聯盟規約第十條ノ條文ニ基キ加盟國ハ聯盟各國ノ領  
 土保全及現在ノ政治的獨立ヲ尊重シ且之ヲ維持スベキ旨協定シ居  
 ルコトヲ想起ヤント欲ス右規定ニ關シ決意ヲ喚起スルハ友邦トシ  
 ナノ權利ヲ聯盟規約第十條ヲ遵守スルコトニ依ツテ加盟國領土  
 ノ保全及其ノ政治的獨立ハ確保ヤラレコレヲ無視スルコトニ依ツ  
 ナ今次ノ如キ事件ガ起キルノデアアルカラシテ聯盟理事會員ハコノ  
 條項ヲ有效且實效的ナル規定ト考ヘルベキデアアル  
 日本ハ世界ノ輿論ニ對シ其ノ對支關係ニ於テ自己ノ態度ノ正當且

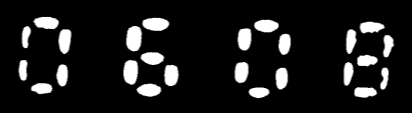
朝鮮總督府

613 ( 0614

穩健ナルコトヲ示スベキ甚大ナル責任ヲ有シテ居ルソレハ既ニ日  
 本ハ支那ノ主權獨立並ニ其ノ領土的及行政的保全ヲ尊重スベキ旨  
 約セル一九二二年ノ九國條約ニ署名シタル事ニ依リ上記責任ヲ最  
 嚴肅ナル條文ヲ以テ承認シテ居ルカラデアアル十二國理事ハ日本ニ  
 對シ其ノ崇高ナル名譽ノ觀念ニ訴ヘ其ノ特殊ノ地位並ニ世界各國  
 カ平和ノ組織及維持ニ參與セル一員トシテ日本ニ與ヘタル信頼ニ  
 伴フ義務ヲ認メンコトヲ求ム」  
 日本ハ以上聯盟十二國理事通牒ニ對シ回答トシテ二月十八日午後九  
 時上海市長ニ最後の通牒ヲ發スルノ舉ニ出テ支那政府ニ對シ左ノ如  
 キ要望ヲ提出シタノデアアル即チ  
 「中國軍隊ハ日本ニ對スル敵對行爲ヲ中止シ二月二十日午前七時迄  
 ニ第一線ノ撤退ヲ完了シ引續キ同日午後五時迄ニ全線ニ亘リ境界

朝鮮總督府

614 ( 0615



朝鮮總督府

ノ境界線ヨリ二千杆ノ地域ノ(獅子林砲臺ヲ含ム)ノ外ニ撤退ヲ  
 終了シ右地域内ニ於テ砲臺其ノ他ノ軍事施設ヲ撤去シ並ニ之ヲ新  
 設セザルコト」  
 而シテ理事會ハ中國代表顧惠慶ノ要求ニ基キ前記日本ノ通牒ニ關シ  
 緊急會議ヲ開催シ其ノ席上ニ於テ中國代表ハ左ノ如ク述べタノデア  
 ル  
 「今ヤ戰禍ノ巷ハ吾人ノ目前ニ展開サレントシテ層々數千ニモ餘ル  
 日本軍ハ其ノ精銳ヲ誇ル文明ノ利器ヲ利用シ四十隻ニ垂ントス  
 ル大艦ヲ使驅シテ其ノ行動ヲ開始ヤントシナキルノデアアル中國軍  
 ハ日本軍ノ要求ニヨリ自國領土ヨリノ撤退ヲサヘ餘儀ナクサレ而  
 モ日本軍ハ其ノ地ニ止マリ攻撃及挑戰的態度ヲ示シツツアル  
 考フルダニ傑然タラザルヲ得ナイ

615 0616

朝鮮總督府

斯ルガ故ニ余ハ理事會ガ規約ノ定ムル所ニ從ヒ明日ヨモ日本軍ノ  
 無謀ナル要求ニヨリ開始サレントスル流血ノ慘事ヲ未然ニ阻止ス  
 ベク救済的措置ヲ講セラレントヲ要求スルモノデアアル」  
 日本代表佐藤氏ハ之ニ對シ日本ノ自衛權ノ發動ト安寧秩序ノ維持ヲ  
 主張シテ應酬シタガ之ハ常套手段デアアル向氏ノ述ブルトコロニ依レ  
 バ即チ「中國ハ秩序アル國家ニ非ズ無政府ノ狀態ニ在リ斯ノ如キ現  
 下ノ情勢ニ於テハ聯盟規約ノ適用ハ不可能デアアル聯盟規約ナルモノ  
 ハ常態ノ下ニ在ル國家ニ對シテノミ始メテ適用シ得ラルベキモノデ  
 アル」ト。  
 理事會ハ二月十九日ノ會議ニ於テ二月十二日ニ於ケル支那代表ノ要  
 求ニ基キ日支紛争問題ヲ總會ニ附託スルコトヲ決議シタ即チ  
 理事會ハ

616 0617

第四章 日本ガ政策ノ口實トシテ提出シタル理由

日本ガ其ノ政策ヲ遂行ヤンガ爲ノ口實ハ左ノ如クデアアル

(一) 九月十八日夜奉天南方ニ於ケル滿鐵線ノ破壞サレタルコト。中國政府ハ日本ノ此ノ主張ヲ全然否認スルモノニシテ不幸ニシテカ、ル事件ガ惹起シタルニヤヨ之ハ些細ナル問題デアアル之ヲ口實トシテ武力ヲ行使シ二十萬方里ニ餘ル廣大ナル支那領土ヲ奪取スルガ如キハ不法モ甚シキモノデアルト信ズル

(二) 日本ハ一度其ノ野望ヲ具体化シ滿洲ヲ混亂ヤシムルヤ之ヲ以テ自衛權ノ發動ナリトシ更ニ上海攻撃南京砲撃ヲ舉ニ出テタガ侵略行爲ヲ以テ自衛權ノ發動ナリト爲スガ如キハ識者ニ對シ甚ダシキ侮辱ヲ加ヘントスルモノデアアル

(三) 更ニ日本ハ日本臣民ノ生命財産ノ保護ヲ以テ口實トス然レドモ九月

618 0619

朝鮮總督府

(一) 日支紛争問題ハ總會ニ附託セラルベキナリトノ聯盟規約第十五條九項ニ依ル中國代表ノ要求ニ基キ

該紛争問題ヲ總會ニ附託スルコトヲ決議ス

(二) 聯盟國各代表ハ軍縮會議列席ノ爲目下セネヴァニ在リ之ニ對シ直チニ總會開催ノ旨ヲ通告シ三月三日ニ總會ヲ開クコトヲ決議ス

(三) 該紛争ニ關スル必要ナル報告取得ノ爲從來採リ來レル措置ハ之ヲ繼續セラルベキコト

(四) 紛争當事國ハ第十五條二項ニ規定ヤルガ如ク事務總長ニ對シ總會ニ於テ使用スル爲ノ諸情報ヲ供スベシ

(五) 聯盟規約ニ基キ理事會ノ平和維持遂行ノ職務ハ本決議ニ依リ何等影響ヲ受クルコトナシ

617 0618

朝鮮總督府

十八日以前ニ於テハ其ノ臣民ノ生命財産ノ危険サヘ口ニシナカツタ  
 デハナイカ故ニ若シ現在日本ノ云フガ如キ危険ガ存在スルモノトヤ  
 バ夫レハ日本自ラノ暴舉ト不法行爲ニ基キ釀成セラレタルモノニ非  
 スヤ中國政府ハ事變勃發當初ヨリ此ノ點ヲ力説シ滿洲ニ於ケル日本  
 臣民ノ生命財産ノ保護ノ爲適切ナル措置ヲ採ルベキコトヲ聲明シ日  
 本軍撤退後ニ於テハ同地方ニ於ケル人命財産ノ保護ノ確保並ニ秩序  
 恢復ニ充分ナル責任ヲ負フベキコトヲ十月ノ理事會ニ於ケル各國理  
 事ノ勸告ニ從ヒ明言シタデハナイカ

(四) 日本ハ匪賊ノ討伐ヲ以テ口實トナス然レドモ斯ノ如キ危険ハ之亦日  
 本軍自ラ行動ニ依リ釀成サレタルモノデアアル  
 各文明國ノ大都市ニシテ既ニ盜賊犯罪人ノ存セザルモノ無シ況ヤ農  
 民遊牧ノ民ノ居住スル滿洲國境地方ニ匪賊ノ出没スルハ何等怪シム

619 ( 0620

ニ足ラザル事デアアル 一九三一年九月十八日以前ニ於テハ全滿洲ヲ  
 通ジテ匪賊數ハ僅ニ二千人ニモ達シナイ状態デアツテ幾多ノ小數部  
 隊ニ分レ居タ爲中國政府ハ之等部隊ノ行動並人員等ヲ明カニ知ルヲ  
 得タノデアアル而シテ斯ノ如キ匪賊ハ何等公安ヲ擾亂スルガ如キ行動  
 ヲ爲サナカツタノデアアル而ルニ現下ノ如キ状態ヲ現出シタルハ一ニ  
 日本軍ガ凡ニル支那行政機關ヲ破壞シタト云フ點ニ原因ガアルノデ  
 アル

(五) 日本ハ滿洲ニ法律ヲ施キ秩序ヲ樹ツベシト主張ス然レドモ日本ノ此  
 ノ企圖タルヤ事實上ヨリ却ツテ滿洲國ニ於ケル秩序ヲ破壞シ滿洲ノ  
 治安ヲ擾亂スルモノデアアル此ノ企圖タルヤ實テ日本ガ其ノ臣民ノ生  
 命財産ノ保護ヲ口實トシテ東部シベリヤヲ占據サル際ト其ノ領ヲ開

620 ( 0621



ジクスルモノデア

内日本ノ口實ノ一層甚シク條理ニ合ハザル點ハ日本ガ條約上ノ權限ヲ擁護シテ行動シツツアリト主張スル事實デアリ即チ日本ガ滿洲ニ於ケル條約上ノ權益ヲ主張スルハ結局聯盟規約、巴里條約並九ヶ國條約ニ基ク條約上ノ義務不履行ヲ限リナク主張スル事トナルデアツテ若シ斯ノ如キ日本ノ主張ガ許容サレラバ條約ナルモノハ實際上ノ目的ニ對シテハ何等存在ノ價值ナク却テ不法ナル制裁力ガ國際關係ノ調停ニ役立つニ至ルデアラウ

(七) 日本政府ハ又口實トシテ中國人ノ日貨排斥並排日行動ニ對シ必要ナル措置ヲ採ルハ正當ナルモノナリト主張シタ  
日本ノ口實トスル所ヲ簡單ニ吟味シテモ分ルガ如ク日本ノ聲明タルヤ何レモ深キ根據ヲ有セザルノミナラス其ノ無定見甚シキモノアリ

朝鮮總督府

621 ( 0622

其ノ嚴重ヲ疑フ餘地充分デアリ日本ハ今ヤ條約背反者トシテ世界ノ非難糾彈ノ的トナツタノデアル而シテ最早單ナル法律上或ハ條約上ノ問題タルニ止マラス幾多ノ戰慄スベキ道德的或ハ物質的損害ト世界平和ニ加ヘタル甚シキ脅威トハ餘リニモ明白ナル事實トシテ條約上ノ立場ヨリ見テ決シテ無視スルコト能ハザルモノデアリ

朝鮮總督府

622 ( 0623

第五章 結 論

朝鮮總督府

中國ハ國際平和ト正義ノ擁護者トシテ國際聯盟ニ應メラレムニ至ツタ  
 ノデアリ且又從來聯盟規約ヲ忠實ニ遵守シ日支紛争問題ノ平和解決ノ  
 爲凡ユル措置ヲ辭シ來リ又將來之ガ爲努力セントスルモノデアアル  
 中國ハ聯盟ヲ安ンジテ問題ノ解決ヲ委ヤタノデアアル蓋千萬ノ戦死者ト  
 三千萬ノ負傷者ヲ犠牲ニシタリトハ云ヘ現在五十五ヶ國ヲ含ム聯盟規  
 約ヲ守リ續ケタ事ヲ誇リトスルノデアアル  
 中國ハ唯一支那目ヲ有力且安固ナル政府ヲ確立維持スル爲最モ完全ニ  
 シテ且最障礙ナキ機會ヲ自ラ開拓スルコト一トノ九ヶ國條約ノ實業ニ  
 基キ平和裡ニ自國ノ運命ヲ發展ヤシメント志シテ居ルノデアアル  
 之ニ何ノ不合理ガアラウカ而モ尙聯盟規約、巴里條約、九ヶ國條約ノ  
 一調印國ガ現在中國領土ヲ擾亂シ其ノ領土保全、行政保全且政治的獨

朝鮮總督府

立ヲ破壞シ中國ノ世界ニ於ケル國家的存在ヲモ脅カシツツアルノデアアル  
 上海攻撃ハ一九三一年九月十八日滿洲ニ勃發ヤル侵略行爲ノ繼續ニ外ナ  
 ラナイ。  
 日本ハ各國ガ既ニ熱慮ノ結果公式ニ放棄シタ往時ノ非文明的方法ノ實行  
 者トシテ世界ノ輿論及聯盟理事會ノ矢表ニ立ツテ居ル日本ノ武力行使ハ  
 現文明的平和的世界ガ唯一ノ希望トヤルコノ嚴肅ナル諸條約ノ中ニ記載  
 ヤル條項ト調和スルコトハ出來ナイ  
 吾人ハ今ヤ戦争ガ平和カノ岐路ニ臨ンデキル中間ノ路ハナイノデアアル  
 若シ日本ガ正當ナリトヤンカ軍國主義ト暴力トハ世界ヲ風靡スルニ至ル  
 デアラウ  
 最後ニ中國政府ハ一九三二年二月九日ノ聲明ニ於テ述ベタルガ如キ支那  
 ノ立場ヲ茲ニ反覆シテ置ク事ガ適當デアルト思フ

昨年九月十八日以來理事會ニ依ツテ執ラレタル手續ニ於ケル國際聯盟ノ公式記録ハ次ノ如キ事ハレヌ事實ヲ明示シテキル

(一)一九三一年九月十八日夜日本ハ何等ノ警告ヲ發ヤスシテ支那領土ニ武力ヲ以テ襲撃ヲ開始セリ

(二)理事會ガ國際聯盟規約第十一條ニ基ク種便ナル措置ヲ講セント努力サルニ不拘之ガ攻撃ヲ間斷ナク續行シ滿洲並其ノ他ノ中國領土ノ權ルベキ侵略占據ヲ爲シタルコト

(三)日本ハ其ノ交戰行爲ヲ中止シ其ノ武力ヲ撤回スベシトノ理事會ノ決議ニ服從セザリシコト即チ日本自身九月三十日並十月九日ノ決議ニ同意サルニ不拘其ノ明文並精神ヲ全ク遵守セザリシコト

(四)各聯盟國ハ亞米利加合衆國ト協力シテ滿洲ノミナラス上海其ノ他ノ地ニ於ケル日本ノ侵略行爲ノ中止ニ努力シタルモ效果ナカリシコト

625 ( 0626

更ニ中國首都南京ガ又日本軍ノ砲撃スルトコロトナリ將來尙其ノ脅威ヲ受ケントシテキルノテ支那政府ハ首都ヲ南京ヨリ洛陽ニ遷スノ餘儀無キニ至リタルコト

(五)日本ノ聯盟規約、巴里條約、九ヶ國條約違反ハ明白ナル事實ニシテ議論ノ餘地ナキコト

(六)中國ハ國際聯盟ニ對シ以上明白ニ述ベタル如キ基本的事實ニ鑑ミ聯盟規約ニ基キ其ノ權力ヲ發動シ速ニ日本ノ交戰行爲並侵略行爲ヲ中止セシメ且中國領土ヨリ日本軍ノ即時撤退ヲ行ハシメ以テ平和的手段ニ依リ日支紛争ヲ解決ヤラレンコトヲ謹ミテ提言スルモノデアル

626 ( 0627